

無書燈

MUJINTO

No.148

2023

特集

● ●
輝く☆同窓生
大谷大学と私

卒業後も「学び、続ける」ことが新たな出会いに繋がる
石橋 義秀 名誉教授



大谷大学同窓会

輝く☆同窓生

やまもと

あきこ

山本 晃子さん (高島市教育委員会)

(1992年度・文学部史学科卒)

ふるや

まさみ

古屋 昌美さん (星空案内人®)

(1993年度・短期大学部仏教科卒)

インタビューー 無盡燈編集委員 西本 祐攝 (大谷大学准教授) 対談日 2023年3月

卒業後も「学び、続ける」ことが新たな出会いに繋がる 共通の興味を持った人が自然に集まる貴重な学生時代を振り返って

— 今回の「輝く☆同窓生」では、大谷大学が発信している「問い、続ける」ということ、また、2023年度「大谷大学公開講演会」の共通テーマが「学び、続ける」であることから、在学中だけではなく、卒業後も仕事や生活の中で学び続けておられるお二人の同窓生の方をお招きし、お話を伺いたと思います。

山本 現在、滋賀県高島市役所の文化財保護を担当する部署で仕事をしています。採用は高島市が合併する前の今津町で町史編さん係に配属され、そこで『今津町史』を編纂するための資料集めや民俗調査をしていました。地域にはたくさんの江戸時代の古文書が残っており、学生時代に「古文書講読」を受講し古文書の勉強をしていたことから、その調査や解説を担当させていただきました。



山本 晃子さん

平成17年(2005年)に高島市が誕生した後は、教育委員会内にある文化財課に配属されました。

行政が行う文化財保護の仕事というと、よく知られるのが埋蔵文化財の発掘調査ですが、私は考古学ではなくて歴史学を専攻していたので、文化財課の中には埋蔵文化財担当の職員もいますが、私はそれ以外の土の上に出ている文化財や歴史を保存して伝えていくという仕事をしています。



古文書クラブとの整理作業の様子

— 歴史、文化財の保存というと大変難しそうですね。

山本 高島市内には多くの文化財がありますが、近年は、

高齢化により文化財を守る担い手が不足したり、自然災害によって壊れたりするといった、文化財保護に対する課題が次々と発生しています。そのため、まずは市内の文化財の現況を調査し、それを守る手段を考えるのが仕事になります。

でも行政だけでは守れないことが多いので、市民の皆さんにたくさん助けていただいています。例えば、古いお宅の調査などで箱一杯の古文書が発見されると、市内で活動されている「古文書クラブ」にご協力をお願いします。「古文書クラブ」には、初めて古文書を見る方も参加されていて、始めは私も一緒に読み方を勉強するところから始めたのですが、皆さん2、3年もすると私よりもずっと読めるようになられて、今ではもう頼りっぱなしです。

— 古屋さんは、現在どういう活動をされていますでしょうか。

古屋 京都・大阪と鳥取を中心に複数の天文施設で仕事をしております。自己紹介でよく使うのが「流しの天文屋」です(笑)。大学を出た後は、和歌山県の日高川町(旧・川辺町)で開設準備中だった公開天文台に採用され研究員として20年ほど勤めました。望遠鏡を使った天体観察会や観測、プラネタリウム解説や番組制作、学校向けの授業や天文イベント企画が主な仕事でしたね。



古屋 昌美さん

— なぜ天文関係のお仕事をされようと思われたのでしょうか。

古屋 地元の枚方市と隣接する交野市に天野川という川がありまして、川を中心に七夕伝説にまつわる史跡があります。もともと天文には関心があり、小学校時代の恩師の紹介で地元の天文台でアルバイトをしたり、大阪市の科学館の会報に七夕伝説と史跡について執筆させていただく機会もあり、学生の頃から天文にかかわる環境に恵まれていた部分があると思います。

専門としている「天文民俗」は聞きなれない言葉かと思いますが七夕やお月見、日本古来の星の名前である「和名」を中心に調査や執筆をしています。最近では北海道のアイ

ヌ民族に伝わる星の名や伝承の調査で2、3ヵ月に1度北海道を訪れています。

— ありがとうございます。山本さんは、滋賀の成安造形大学附属近江学研究所の客員研究員をされています。そこで「安曇川をめぐる文化財—その立地と成り立ち—」という論文で「シコブチ神」について報告されていますが、これはどういうお仕事だったのでしょうか。

山本 シコブチ神とは、高島市内を流れる安曇川の水系周辺だけにおられる神様です。安曇川の水の流れを使って仕事をしている人が信仰した神様だと考えられ、地域固有の大変貴重な歴史事象だといえます。

「シコブチ神」の調査では、地域住民で組織される「安曇川流域文化遺産活用推進協議会」の皆さんが、神社にどのようないわれがあるのか、その神様を信仰したのはどんな人なのか等の聞き取りをされ、その成果を地図にまとめられました。私はその調査をするための補助金を紹介することが主な役割でした。



— 先ほど古文書クラブのお話をされましたが、実地でそういうふうに学んでいると読めるようになっていくものなのですか。

山本 よく読めるようになります。ただ私などは記憶力がなくて2週間ほど古文書に接しないとすぐに忘れてしまうのです(笑)。もともと大学の博物館学課程で「古文書講読」という必修授業を2年(笑)受けて、ようやくちょっとわかるかなというくらいでそのまま仕事に就いたのです。仕事に就くと実地でどんどん出てくるので、必要に迫られて読むというような感じでした。

— 古屋さんは、2021年5月10日に公開された「枚方市子ども夢基金活用事業」というHIRAKATAプラネタリウムミュージアムの動画で、肉眼では見えないような1000万個の星について解説をされていますね。

古屋 枚方市とは何度かお仕事をさせていただいてまして、HIRAKATAプラネタリウムミュージアムでは、七夕伝説と枚方の七夕史跡を紹介する動画コンテンツの監修をしました。また、持ち運び可能なモバイルプラネタリウムを使用した七夕イベントでの解説もしています。

— 枚方市が七夕伝説のゆかりの地だという、その辺りのことを少しお聞きしたいのですが。

古屋 枚方、交野あたりは、古代「交野ヶ原」と呼ばれ奈良と京都のちょうど中間という地点であり、古くから天皇や皇族の領地として重要視されてきました。そこに「天野川」という川があるのですが、実は七夕信仰が広まる前から「あまのがわ」という名前です。調べていくと、甘い野の川と書いて「甘野川」でした。流域には「天田」や「星田」といった地名もありますが、これも元は「甘田」「干田」でした。

耕作地の水利、美味しいものを「甘い」と表現する古代の概念からの土地の名前だったり、川の名前だったのです。皇族や有力な渡来氏族と繋がりのある土地だったので、平安貴族たちが訪れる場所でもありました。『伊勢物語』の在原業平が惟喬親王と狩りに訪れた際に滞在して歌を詠んだ「渚の院」の史跡も当地にあります。

また、平安遷都をおこなった桓武天皇が、中国の皇帝に倣って星を祀ったという郊祀壇という遺跡も残されています。たまたま「アマノガワ」と呼ばれた川があり、渡来系氏族の持ちこんだ機織りや製鉄といった最新の文化技術と土地の歴史とが結びついて、七夕伝説が生まれたようです…こじつけに近いものもありますが(笑)。

七夕伝説はアジアの諸地域に伝わっていますが、各国の星や月・太陽にまつわる伝承をまとめるプロジェクトが2009年に立ち上がりました。この年は「世界天文年」という年でして、世界各国で催しがあり、日本では東京の国立天文台が中心になって幾つかのプロジェクトが立ち上がりました。

そのひとつとして、アジアの星の伝承を書籍としてそれぞれの国の言語で出版することとなり、その際、日本の七夕に関する話をまとめてほしいという声をかけていただき、書籍『アジアの星物語』の出版に関わることができました。日本が先駆けて出版し、英語版の書籍もありまして、電子版で近々公開予定です。



愛媛県天文台でのプラネタリウム解説

— 和歌山県の天文台でお勤めのころ、和歌山大学の宇宙教育研究ネットワークで客員准教授もされていたそうですね。

古屋 もともと和歌山という土地が天文に関する土壌のある地域です。星の伝承や日本の天文学の発展を担った研究者ゆかりの土地も多く、今のうちにまとめようと

プロジェクトを立ち上げ、県の補助金を得て冊子『和歌山星空物語』を発行して県内各地に配付しました。

山本 和歌山が天文学の先進地だとは知りませんでした。

古屋 和歌山には高野山があり、密教には星曼荼羅や星供といった星々の巡りから運命を読み取るといった占星術的なものがあります。

山本 密教では星とかが結構出てきますね。

古屋 高野山と和歌山大学とが星をテーマに連携した講演も過去に開催されています。また、仏教の中には北極星や北斗七星を神格化した妙見信仰があり、関西ですと大阪の箕面、東日本ですと千葉県を中心に妙見信仰が広がっています。

実は、私が谷大に入学したのは仏教史を学びたかったからです。昨今では「歴女」とか「仏女」とか言われていますが、まさにその走りみたいな感じで高校時代は一人で寺巡りする地味系でした(笑)。

山本 私も完全に同じです。陰陽道とかを調べることはないのですか。

古屋 陰陽道も関係がありますね。今、日本各地の星にまつわる和名や史跡、伝承、少し砕けたところでお菓子やお酒などをまとめた本を作っています。この夏頃に出版できるよう進められており、その中で京都をはじめとした関西の史跡紹介を担当させてもらっています。陰陽道の紹介もありますが、専門家の方がご覧になったら怒られるレベルかもしれません(笑)。

— その本も楽しみですね。次に、学生時代のご様子について伺いたと思います。

古屋 学生時代は、放送局(OBS)のアナウンス部に所属していました。その時の経験は、プラネタリウムの解説など人前で話す時にたいへん役立ちましたし、学内のイベントや学園祭での企画・運営といった、今の仕事にも活かせる経験をさせてもらいました。もちろん大学での勉強についても記憶にはあるのですが、サークルがすごく楽しかったという記憶の方が強いですね(笑)。



同窓会の新入会員歓迎祝賀会で司会を担当

— いつ頃から星に興味を持ったのですか。

古屋 星に関する記憶で一番古いのが3歳の時です。たまたま見た流星がきっかけでした。普通、皆さんがイメー

ジする流星の色は白や黄色っぽい色だと思うのですが、そのとき見たものは緑色でした。まわりの大人は信じてくれなかったのですが、成長してから調べると緑色の流星というのが全く珍しくないことがわかったのです。成長してから流星のメカニズムを学んでみれば、緑色は珍しくありませんでした。一般のイメージだと緑に輝く流星は「ないだろう」とされるかもしれませんが、学ぶことで自分が見たものが幻ではなかったと確信できたことが大きな経験となりました。

— まさに今回のテーマ「学び、続ける」ということの実験的な体験談をお聞かせいただきたいと思います。

山本さんの学生時代はどのような様子でしたでしょうか。

山本 私も同じような経緯かもしれません。子どものころから歴史が好きだったので大学を選ぶ条件は、史学科があることと博物館学芸員の資格が取れることでした。高校では歴史研究部というのに入っていたのですが、そこで先輩に学芸員という仕事があると教えてもらって、史学科に行ったらずっと歴史が仕事になるのだと、そのときは簡単に思っていました(笑)。

そのため授業はわりとまじめに出たつもりですが、実は大学時代の記憶の大半は、学園祭実行委員会の思い出です。私は第1学年から第3学年までの3年間学園祭実行委員会に入っていました。そこではたくさんの人と一緒に、学園祭成功という目標の達成のために走り続けていたもので、ここで共に走った仲間は今も大切な存在です。



学園祭では接待部長(写真左)、事務局次長を歴任

— 学園祭での経験などは、先ほどの古文書クラブを作ったときにも活かされたのでしょうか。

山本 本当に役に立っていると思います。仲間を作ることや一緒に一つの目標を目指すことの楽しさを学園祭で得たことは本当に大きいです。

古文書といえば、今も仕事の上で欠かせない古文書解読用の『くずし字解読辞典』は、学生の時に草野顕之先生が「これいいよ」と言われた辞典で、ぼろぼろになって二代目ですが、同じものを使っています。

古屋 私も持っています！

山本 授業の時に草野先生が「これは書き込みをして自分で使いやすいようにしていく辞典です」と言われて。だから書き込みがあるからぼろぼろの一代目も捨てられなくて、表紙が外れたのですが今も机の中に入っています。

— わかります。それはなかなか変えられないですね。
最後に今の学生に向けて、これが大事だよということなどお聞かせいただけますでしょうか。

古屋 あまりお手本にならない先輩ですが、谷大は他の大学と何が違うかという、やはり仏教を学ぶことだと思います。学生の頃は「これは必要なのだろうか」と思うこともあると思います。しかし、私自身まったく違う分野の仕事に就きましたが、仏教を学んでよかったことはありましたね。直後ではなく5年後だったり10年後だったりですが…。たとえば今くずし字のお話がありました。天文でも分野によってはくずし字を読む機会があります。

— くわしくお聞かせいただけますか。

古屋 以前こちらの博物館で伊能忠敬の日本地図の展示があり、和歌山から見学に参りました。当時の地図作成における測量の基本は天体観測です。江戸時代の享保年間の頃から将軍吉宗の命を受けて海外の科学専門書が長崎を通じて入ってきており、当時の幕府天文方では西洋の最新の専門書で学んだり、観測を行い記録していたのでその古文書資料を読むこともあります。

仏教にも仏教天文学と呼ばれている須弥山を中心にした宇宙観があり、須弥山儀という宇宙観を立体模型にしたものがあります。仏教には仏教なりの宇宙観があって、真宗の僧侶を中心に宇宙を理解しようとしたり、一般に広めようとしたりといった、歴史の中での立ち位置がありました。宗教と科学は相容れないものと思われがちですが、キリスト教で論じられた天動説、地動説を見るように無関係ではありません。

大学時代は学ばなければいけない事もあって「学ぶ必要はあるのか？」と思ったりしますが、将来どこかで再開することで、その学びが自分にとって大事なものとなるかもしれません。

学生として手をふって学ぶことだけに使える期間を大切にしてもらいたいです。

— ありがとうございます。山本さんからもお願いいたします。

山本 古屋さんと全く同感なのですが、私は大学時代、楽しかった思い出しかないのが本当にありがたかったなと思うことばかりです。大学で学んだことが仕事にも直結をしていますし、その他では、仕事でお寺の方にお会いすることが多いのですが、谷大出身ということで親しくしていただくこともあります。

あと谷大で良かったと思うのは、大学の規模がわりと小さいので、人と接する機会や友だちを得る機会が多かったことです。気軽に友だち作りができるのもおそらく大学生のときが最後の機会になります。同じ年代で共通の興味を持った人が自然に身近に集まっている貴重な学生時代をぜひ大事にしていいただければと思います。

— お二方から本当に大事なメッセージをいただいたかと思えます。
最後にお互いにお尋ねになってみたいことはありますか。

古屋 たとえば七夕の風習もお月見もですが、地域差というのがあるのですけれども、滋賀の場合、近江商人の存在は大きいのではないのでしょうか。七夕の風習も北前船で北海道へと北上していったりということがありますが、そこには必ず近江商人が絡んでいたと思うのです。
山本 絡んでますね。高島市出身で、東北で成功した近江商人も多くおられます。

私は質問ではないです。いつか高島市でも星の話をお聞かせいただくことができるでしょうか。

古屋 私でよろしければ。月見でも七夕でも。滋賀も和名がたくさん残っているので、たとえば地域に特化した星のお話というのでもできます。

山本 すごい。私の自宅周辺も街灯が少なく、星がとてもよく見えるんです。そんなところで古屋さんのお話を聞くことができればとても贅沢でしょうね。

古屋 はい。伺わせてもらいます。

— 今も対談されている様子からは、新しく学び続けようというか、そういう探究心旺盛な姿勢がそのまま出ているなと思いました。

山本・古屋 そんなことないです(笑)。

— ご自身では気づかれてないと思いますが、聞いているとそういう印象があります。自分が知りたいと思ったことや、本当に興味があることはどんどん調べたくくなりますよね。今日は、大谷大学同窓会の各支部で開催される公開講演会の今年度の共通テーマ「学び、続ける」ということを実践されておられるお二人のお話をお聞きできたかなと思います。同窓生にとってもそうですし、現在、大学で学んでいる学生にとってもお力をいただけるようなお話になったのではないかと思います。本日は、ありがとうございました。



大谷大学と私



名誉教授
石橋 義秀

大谷大学での学究生活

～多屋頼俊先生の学恩を謝す～

私が大谷大学文学部に入学したのは、1963年(昭和38年)4月です。4歳年上の兄・本明義彦は大谷大学で国文学を専攻し、多屋頼俊先生の厳しい指導を頂き、卒業後中学校に勤務していました。その兄から「いずれ住職を継ぐにしても、先ず教員を経験した方がいい。大谷大学には多屋頼俊という凄い先生がおられるから国文学を専攻し、教員免許と大谷派教師資格を取得すればよい。」と助言があり、それに従いました。

多屋先生は、『歎異抄新註』『和讃史概説』『源氏物語の思想』等、数多くの業績があり、厳しい研究と教育で学内外に知られていました。入学後、稲葉秀賢・舟橋一哉・横超慧日先生等の授業を聴講し、さすがに伝統ある大学だと感服しました。第2学年から多屋先生の「国語学概論」等、国文学講義を中心に受講しました。厳しいが学識と人間味溢れる先生の講義に出会い、国文学専攻を決めました。第3学年演習「国文学研究史」では、古典文学作品の研究状況を専攻生が2人1組で順番に『万葉集』から作品ごとに研究室や図書館で調べて、発表資料を作成し報告するという授業でした。先生の熱心なご指導、更に研究室での優しい風貌に心ひかれ、10名ほどの専攻生と共に懸命に古典文学を学習しました。

実は、その1年前に、岩波書店から日本古典文学大系『親鸞集 日蓮集』が出版され、多屋先生は「親鸞消息・歎異抄」の執筆を担当されました。先生は、長年にわたって研究してこられた成果を古典文学大系本に収録される際、更に心血を注いでその研究を集大成されました。当時は、多屋先生がそのような偉大な学者だとは知らずにおりました。先生は国文学の知識に乏しい専攻生に古典文学の研究状況や研究法について丁寧にご指導くださいました。また国文学研究室でも仏教文学について、資料を広げて熱く語られました。

多屋先生は、常に「大谷大学の国文学は、他大学の国文学と異なり、真宗・仏教を根底にした国文学でなければならない」と言われました。

大谷大学国文学の先輩方(渡辺貞磨先生や片岡了先生)は「研究の道に進んだのは偏に多屋先生のお陰であるから、偏依多屋一師である。」と「偏依善導一師」をもじって言われました。後輩の私も研究の道に進むことになったのは偏に多屋先生のお陰であり、多屋先生は生涯の師であります。

私は国語教員を目指していましたが、多屋先生は大学院進学を勧めてくださいました。父住職の許可を得て、博士課程まで進学し、『今昔物語集』を中心に仏教文学研究を重ねて『国語と国文学』など学会誌に掲載頂き、幸いにも大谷大学国文学研究室助手に採用頂きました。爾来、専任講師・助教授を得て、定年退職まで教授として大谷大学に勤めることができ、大変有り難いことでした。

80歳になり、過ぎ去りし方を振り返りますと、多屋先生は教え子のために、菩薩道を実践された稀有な方だと思います。私の場合は、多屋先生御所蔵『祖師一言法談』を定年退職1年前に影印・翻刻出版することができたこと、また約30年にわたって研究を重ねてまとめた『仏教説話論考』や『仏教文学論叢』などを公刊し、学会に寄与できたことは多屋先生のお陰です。さらに昨年11月、多屋頼俊先生33回忌法要記念誌『大悲無倦常照我』を出版し、先生の学恩に報いることができたことを深く感謝しています。

略歴紹介

いしばし ぎしゅう
石橋 義秀 名誉教授

1943(昭和18)年 8月 京都府に生まれる
1967(昭和42)年 3月 大谷大学文学部卒業(国文学)
1969(昭和44)年 3月 大谷大学大学院修士課程修了(仏教文化)
1972(昭和47)年 3月 大谷大学大学院博士後期課程満期退学
1972(昭和47)年 4月 大谷大学助手
1978(昭和53)年 4月 大谷大学専任講師
1984(昭和59)年 4月 大谷大学助教授
1992(平成 4)年 4月 大谷大学教授
2009(平成21)年 4月 大谷大学名誉教授

1992(平成 4)年10月～1994(平成 6)年 9月 大谷大学学生部長
2007(平成19)年 5月～2009(平成21)年 5月 大谷大学同窓会理事長
2017(平成29)年 5月～2021(令和 3)年 4月 大谷大学同窓会会長

【著書・論文】

『祖師一言法談 影印・翻刻・解題』(単著 文栄堂)
『仏教説話論考』(単著 文栄堂)
『仏教と文学』(単著 文栄堂)
『常照我—法話・随想集』(単著 文栄堂)
『仏教文学論叢』(単著 松香文庫)
『大悲無倦常照我一多屋頼俊先生 三十三回忌・記念誌—』
(単著 松香文庫)
その他

同窓通信

京都女性起業家賞を受賞して—病氣と向き合い、言葉と向き合う—

2010年度・文学研究科国際文化専攻修士課程修了 西 美都子(美縁-mien-代表)



京都府主催の「第11回京都女性起業家賞」の特別賞(京都リビング新聞社賞)を2022年にいただきました。この賞は「人々の生活向上や地域社会・経済の活性化に寄与する女性起業家」に贈られます。評価していただいたの

は、がんと診断された人の治療準備をサポートするノートと、抗がん剤治療中の体調や気分の変化を書き込み、医療者とのコミュニケーションを円滑にする記録手帳の企画販売事業「美縁-mien-」です。

事業を始めたきっかけは、私自身が2019年にがんと診断されたことです。30代半ばの私には想像もしていないことでした。治療を受けるなかで気がついたのは、がん患者のための情報や支援は多くあるのに、欲しい情報へアクセスする道筋を示してくれるものがないということです。進行し転移する病気の性質上、短期間で病気への理解を深め、治療法を選択し、仕事を調整し、治療費等の経済的な問題にも対応しなければなりません。それはとても大変なことでした。こうした私の経験が誰かの役に立つのではないかと考え、がん患者が欲しい

情報を得る助けとなるノートや手帳を作ろうと決めました。また、こころもからだも辛くなりがちな治療期間を、少しでも明るく、前向きに生きられるようなデザインのものを作りたいという想いもありました。

ノートと手帳の制作は、ひと

つひとつが根気のいる作業でした。医療情報から各種サポート情報に関するものまで、一読するだけでは理解が難しい様々な情報を丁寧に読み込み、初めて触れる人にもわかるようにまとめ直す作業、多様な情報を項目毎に分け、手帳を使用する人が必要な情報にアクセスしやすいよう構成する作業、読みやすくわかりやすい表現になるよう、繰り返し推敲を重ねる作業などです。今回『無盡燈』への寄稿依頼を受け、原稿を書きながら大谷大学での学びを振り返ってみると、私がノートと手帳の制作過程で行ったそうした作業は、大谷大学大学院時代に学んだことだと思い出されました。私は大学院で、文学研究を行い、言葉で表現されたものと日々向き合いました。先生からの指導や日々の研究を通じて、丹念に読むことと適切に表現することの大切さと難しさを学びました。テキストに向き合う姿勢、自由に発想する楽しさや難しさ、表現の正確さや形式の重要性など、当時学んだことが制作過程のなかにそのまま生きています。

現在は、大学講師として働きながら、がん患者をサポートするための事業を続けています。いまの課題は、がん患者が治療を受けながら仕事を通じた社会とのつながりを維持できる場を創出することです。治療によって仕事を辞めざるをえず、社会参画の機会を奪われることで、経済的、精神的な拠り所をなくしてしまう人もいます。そうした人に対し、治療を受けながら、その治療に合った形で仕事の機会を提供できる事業にしていきたいと考えています。

「美縁-mien-」ホームページ
<https://www.mien-2021.com>



みんなと
 いっしょで
 よかった。

大谷大学指定推奨

プラサーダ Otani

大谷大学女子学生専用

2021年3月築

大谷大学まで徒歩4分。
 家具付きのシェアハウスです。



株式会社 **フラットエージェンシ** 本店営業部 TEL: **0120-75-0669**

宅地建物取引業免許番号 京都府知事免許(10)第7189号
 公益社団法人京都府宅地建物取引業協会会員 公益社団法人近畿地区不動産公正取引協議会加盟店 取引感懐(貸主)

同窓会活動報告

2022 Alumni Activity Report

学生たちに支援を行いました!!

◆ 同窓会支援丼を提供

2022年度も授業実施期間中の学生支援の取り組みとして、学内食堂、カフェ(テイクアウト用)での「同窓会支援丼」の提供を行いました。

「同窓会支援丼」は大変好評で、多い時には一日に100

食以上が利用され、テイクアウト用の丼も昼休み時間になってすぐに売り切れとなる日もありました。

なお、「同窓会支援丼」の提供は、2023年5月8日の新型コロナウイルス感染症の5類移行をもって終了いたしました。

◆ 谷大生応援プロジェクト2022を開催

昨年度に続き、2022年11月12日(土)の学園祭期間中に新型コロナウイルス感染症の影響や急激な円安による物価高騰により生活が困窮している学生のために「谷大生応援プロジェクト2022」として、各同窓会支部や多くの同窓生の皆さまからレトルト食品などの食料品提供をいただき、学生に配付しました。



全国からご提供いただいた品々

9月上旬から食品のご提供を呼びかけたところ、同窓会役員・支部をはじめ、同窓会員や教育後援会員、教職員の皆さまから約5,300食もの温かいご支援を賜りました。ご提供いただいた食品は、10食(5日分)を1袋に仕分け、470人の学生に配付させていただきました。

また、11月10日(木)に学生への贈呈式を行い中央執行委員会委員長代理の荻田優人さんに提供品一覧の目録、学園祭実行委員会委員長の吉見菜摘さんには後夜祭用の景品を贈呈しました。当日はマスクミ7社からの取材があり、学生代表の2人は初めての記者会見に緊張しつつもしっかりとインタビューに応じていました。



配付当日の様子



記者会見の様子

◆ 大谷大学公開講演会を開催

新型コロナウイルス感染拡大による影響で、2020年度、2021年度はオンラインでの開催となりましたが、2022年度は一部の支部では中止またはオンライン開催

となったものの、国や各自治体の方針に配慮しつつ、50支部(うちオンライン開催6支部)において「大谷大学公開講演会」を開催することができました。



飛騨支部



京都支部

◆ 2022年度菩提樹賞表彰式を挙

卒業証書並びに学位記授与式が執り行われた2023年3月17日(金)に、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行いました。

この「菩提樹賞」は、卒業・修了年次生のうち、在学期間中に学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生又は課外活動団体を表彰し、今後のご活躍を願って同窓会より贈るものです。

【2022年度受賞者<文化分野>】

竹内 美月 さん(文学部歴史学科卒業)

竹内さんは書道部部长として、コロナ禍で通学やクラブ活動が行いにくい環境下でも、3年間欠かすことなく大学正門・北門に毎月掲示されている「きょうのことば」の書を掲示し続けられました。

山口 悠夏 さん(文学部歴史学科卒業)

山口さんは入学後スポーツチャンバラ同好会に所属し、女子部員が少ない中で男子部員との厳しい練習に耐えながら数々の大会に出場されました。また、優勝をはじめ数々の優秀な成績を収められました。



懇談の様子



(左から2番目) 竹内さん、山口さん

今年度も昨年度同様、新型コロナウイルスの影響で祝賀会が中止となりましたので、学内において表彰式を執り行うこととなり、佐賀枝同窓会長から表彰状と記念品が贈られました。今回の受賞にあたり、竹内さんは「コロナの影響等で2年半、部長を務めました。このような賞を頂けて2年半が報われたと同時に嬉しく思います。」と、山口さんは「まず素晴らしい賞を頂けて、非常に光栄です。そして今回の受賞で、さらにスポチャンが広まれば嬉しいです。」と感想を述べられました。



竹内さん書の掲示板



山口さんの試合の様子

遺言

相続

本山・官公庁への書類作成

吉武学行政書士事務所



全国対応
できます

よしたけ まなぶ
吉武 学 (行政書士・真宗大谷派住職・相続診断士)

まずは気軽に「ご僧談」ください (初回相談 1 時間無料)

0740-20-9041 info@office-yoshitake.net
滋賀県高島市新旭町饗庭2483番地

ホームページはこちら

大谷大学真宗学科卒業の
お坊さん行政書士
滋賀県行政書士会所属 第22251357号

2023年度の同窓会活動について

最新情報はこちらをチェック！

大谷大学同窓会



◆ 同窓会総会開催

2023年5月12日(金)に同窓会総会が開催され、以下の議案が承認されました。

- 議案 (1)2022年度事業報告及び収支決算報告
 (2)役員の改選について
 (以下、2023年度役員一覧参照)

(3)2023年度事業計画及び収支予算(案)

- 報告事項 (1)特定非営利活動法人尋源舎の活動について
 (2)その他

2022年度大谷大学同窓会収支決算書

【収入の部】		【支出の部】	
科目	決算額	科目	決算額
1. 前年度繰越金	25,415,317	1. 事業費	10,995,746
		本部事業費	6,427,080
2. 会費	23,679,000	支部事業助成費	3,165,600
会費(1)	1,179,000	同期会・OB会等開催助成費	0
会費(2)	22,500,000	学生会助成費	200,000
3. 入会金	3,750,000	新入会員歓迎費	1,203,066
4. 寄付金	726,000	2. 刊行費	2,074,250
5. 同窓会基金取崩収入	0	無盡燈刊行費	1,461,680
6. 雑収入	150,128	印刷製本費	612,570
7. 同窓会運用資金	25,000,000	3. 事務費	3,518,023
		本部事務局費	13,063
		活動費	350,000
		通信費	3,154,960
		4. 旅費	3,051,484
		5. 会議費	1,059
		6. 委託費	1,863,957
		7. 雑費	163,711
		8. 同窓会基金繰入支出	52,396
		9. 同窓会活性化準備金	521,895
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	2,015,486
合計	78,720,445	合計	49,258,007

収入の部-支出の部= 29,462,438 (次年度繰越金)

2023年度大谷大学同窓会収支予算書

【収入の部】		【支出の部】	
科目	予算額	科目	予算額
1. 前年度繰越金	29,462,438	1. 事業費	12,685,000
		本部事業費	4,660,000
2. 会費	22,350,000	支部事業助成費	4,150,000
会費(1)	1,050,000	同期会・OB会等開催助成費	700,000
会費(2)	21,300,000	学生会助成費	200,000
3. 入会金	3,550,000	新入会員歓迎費	2,975,000
4. 寄付金	500,000	2. 刊行費	2,349,000
5. 同窓会基金取崩収入	0	無盡燈刊行費	1,622,000
6. 雑収入	605,562	印刷製本費	727,000
7. 同窓会運用資金	25,000,000	3. 事務費	4,163,000
		本部事務局費	97,000
		活動費	380,000
		通信費	3,686,000
		4. 旅費	4,470,000
		5. 会議費	1,470,000
		6. 委託費	2,160,000
		7. 雑費	280,000
		8. 同窓会基金繰入支出	60,000
		9. 同窓会活性化準備金	1,500,000
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	27,331,000
合計	81,468,000	合計	81,468,000

◆ 2023年度役員一覧 (2023.5.12現在)

会長 佐賀枝 夏文	理事 奥村 豊	理事 和田 一丸	常務理事 宮崎 健司
副会長 加藤 隆昭	理事 菅原 信顕	監事 長谷岡 英信	常務理事 采 暉 晃
副会長 柴田 達也	理事 月輪 淳裕	監事 藤坂 初裕	常務理事 中島 弘喜
理事長 東館 紹見	理事 難波 明則	顧問 一 榮 真	理事 村山 保史
常務理事 井上 恵二	理事 藤原 憲	常務理事 平野 寿則	
常務理事 高木 文善	理事 本間 義悦	常務理事 柘植 至	
常務理事 日野 隆文	理事 村上 秀磨	常務理事 大 秦 一 浩	

2023年度同窓会事業予定

◆ 第25回ホームカミングデー・職域同窓会(教育・福祉)を開催(予定)

2023年11月11日(土) ※詳細は同窓会ホームページでお知らせいたします。

◆ 全国各地での「大谷大学公開講演会」開催！

【大谷大学公開講演会】

大谷大学公開講演会詳細



大谷大学同窓会HP

2023年度は全国各地で「大谷大学公開講演会」を開催する予定です。是非、ご参加ください。
大谷大学公開講演会の開催日時、会場等については同窓会ホームページでご確認ください。
なお、新型コロナウイルス感染拡大、天候等により、急遽、開催中止となる場合があります。
その際もホームページにてお知らせいたします。

2023年7月上旬より、全国65カ所で開催！ 共通テーマ「学び、続ける」

2023年度「大谷大学公開講演会」開催一覧 (72支部 65会場)

支部名	開催日程	講師	講題
函館	7月23日(日)	学長 一 榮 真	聞思して遅慮することなかれ
小樽	7月24日(月)	名誉教授 佐賀枝 夏文	学び、続ける—先生から「人生に学ぶこと」をいただいて—
札幌	未定	未定	未定
岩見沢			
夕張	7月8日(土)	教授 富岡 量秀	「学び」続ける—こどもを育む「Be Real・ほんとうの」学びとは—
砂川			
北国	7月5日(水)	名誉教授 加来 雄之	真宗と相続
旭川			
室蘭	7月22日(土)	学長 一 榮 真	聞思して遅慮することなかれ
深川	9月14日(木)	教授 藤枝 真	学び、続ける—鈴木大拙「日本の靈性」と人口減少社会の宗教—
十勝	7月4日(火)	名誉教授 加来 雄之	真宗と相続
紋別	8月30日(水)	講師 本明 義樹	「聞思」という学び
釧路	7月20日(木)	名誉教授 石橋 義秀	「学び・続ける—多屋頼俊先生の国文学ゼミ指導を通して考える—」
青森	9月6日(水)	准教授 藤元 雅文	学び、続ける—親鸞聖人のあゆみを通して—
岩手	9月5日(火)	名誉教授 織田 顕祐	学び、続ける—「大乘の至極」とは？—
宮城	9月5日(火)	准教授 中野 加奈子	現代の「貧困問題」を学ぶ
秋田	9月5日(火)	准教授 藤元 雅文	学び、続ける—親鸞聖人のあゆみを通して—
山形	8月3日(木)	講師 本明 義樹	「聞思」という学び
福島	9月9日(土)	教授 平野 寿則	「学び、続ける—東本願寺東照宮御霊殿考—」
茨城	8月23日(水)	教授 ダシヨバニ	学び、続ける—国際交流の視点から—
栃木	9月9日(土)	教授 東館 紹見	学び、続ける人 親鸞—聖徳太子との出遇いを通して見えてくるもの—
埼玉	9月2日(土)	教授 井上 尚実	「学び、続ける—親鸞聖人の晩年における思想の深化—」
千葉	9月10日(日)	准教授 藤原 正寿	「学び、続ける」—現代社会と親鸞思想—
東京	8月1日(火)	教授 木越 康	「学び」続ける “Pure Land” という Buddhism
神奈川	8月22日(火)	教授 ダシヨバニ	学び、続ける—国際交流の視点から—
山梨	9月3日(日)	教授 田中 久美子	目標に向けて「学び、続ける」ために
信濃	9月4日(月)	名誉教授 佐賀枝 夏文	学び、続ける—先生から「人生に学ぶこと」をいただいて—
三上	9月5日(火)	教授 東館 紹見	学び、続ける人 親鸞—聖徳太子との出遇いを通して見えてくるもの—
上越	9月4日(火)	教授 東館 紹見	学び、続ける人 親鸞—聖徳太子との出遇いを通して見えてくるもの—
静岡	8月30日(水)	准教授 中野 加奈子	現代の「貧困問題」を学ぶ
三為	8月29日(火)	名誉教授 ロバート F.ローズ	聞について—仏願の生起・本末を聞く
尾張	9月14日(木)	教授 木越 康	「学び」続ける “Pure Land” という Buddhism
大垣	9月19日(火)	准教授 西本 祐攝	学び、続ける—清沢満之の求道—
岐阜	8月23日(水)	名誉教授 織田 顕祐	学び、続ける—「大乘の至極」とは？—
郡上	8月28日(月)	教授 井上 尚実	「学び、続ける—親鸞聖人の晩年における思想の深化—」
飛騨	8月2日(水)	学長 一 榮 真	聞思して遅慮することなかれ
富山	8月24日(木)	准教授 藤原 正寿	「学び、続ける」—現代社会と親鸞思想—
金沢	9月6日(水)	名誉教授 ロバート F.ローズ	聞について—仏願の生起・本末を聞く
能登	10月21日(土)	准教授 大原 ゆい	家族を介護するケアラーとの出会いと学び
小松	8月24日(木)	教授 箕浦 暁雄	「学び、続ける」
大聖	8月23日(水)	准教授 藤原 正寿	「学び、続ける」—現代社会と親鸞思想—
福井	9月15日(金)	教授 山本 和彦	ブツダに学び続ける
湖東	9月2日(土)	教授 國賀 由美子	湖東地域における近世絵師の活動について
湖南	9月2日(土)	教授 木越 康	「学び」続ける “Pure Land” という Buddhism
湖西	9月9日(土)	准教授 西本 祐攝	学び、続ける—清沢満之の求道—
京都	9月3日(日)	教授 宮崎 健司	大谷大学博物館の願い—20年のあゆみと学びの公開—
丹波	8月31日(木)	教授 安田 誠人	「発達障がい」に関する学びを深める—発達障がいのある子どもの障がい理解とコミュニケーション支援方法—
大阪	9月8日(金)	准教授 大原 ゆい	家族を介護するケアラーとの出会いと学び
大阪市			
大阪東			
大阪南	9月30日(土)	教授 木越 康	「学び」続ける “Pure Land” という Buddhism
神戸			
阪神	9月3日(日)	名誉教授 加来 雄之	真宗と相続
奈良	7月26日(水)	名誉教授 草野 顕之	親鸞伝を学び続ける
播磨	9月1日(金)	准教授 上野 牧生	学び、続ける—韋提希とその兄、波斯匿王—
鳥取	9月4日(月)	教授 富岡 量秀	「学び」続ける—こどもを育む「Be Real・ほんとうの」学びとは—
島根	9月7日(木)	名誉教授 佐賀枝 夏文	学び、続ける—先生から「人生に学ぶこと」をいただいて—
岡山	8月23日(水)	教授 村山 保史	学び続けるということ—曾我量深の清沢満之との出会いから—
福山	9月2日(土)	教授 山本 和彦	ブツダに学び続ける
広島	8月31日(木)	教授 木越 康	「学び」続ける “Pure Land” という Buddhism
山口	9月1日(金)	教授 山本 和彦	ブツダに学び続ける
四国	8月31日(木)	准教授 上野 牧生	学び、続ける—韋提希とその兄、波斯匿王—
福岡	9月2日(土)	教授 谷口 奈青理	学び、続ける—臨床心理学の立場から—
久留米	8月31日(木)	准教授 四方 保仁	「学び、続ける」
佐賀	8月29日(火)	准教授 藤元 雅文	学び、続ける—親鸞聖人のあゆみを通して—
大分	9月9日(土)	名誉教授 草野 顕之	廣瀬淡窓と東本願寺の学僧・学寮
北九州	8月29日(火)	学長 一 榮 真	聞思して遅慮することなかれ
長崎	8月30日(水)	学長 一 榮 真	聞思して遅慮することなかれ
熊本	9月1日(金)	教授 福島 栄寿	学び、続ける—歴史学の場合—
宮崎	8月28日(月)	准教授 藤元 雅文	学び、続ける—親鸞聖人のあゆみを通して—
鹿児島	8月20日(日)	教授 采 晃	学び、続ける—仏教の人間像—



同窓会支部だより



私達の学びを どう伝えていくか

夕張支部長 月輪 淳裕
北海道の厳しい冬もまもなく終わ
りそうです。その雪に毎年悩まされ
ている札幌、岩見沢、夕張の三支部は合同で例年夏季
の公開講演会を唯一の活動として行っておりました。

しかし、これまでに経験したことのない3年に及ぶコ
ロナ禍により中止を致しました。ですが、これまでも三
支部でかなりの同窓生がいますが、出席者が少なく苦
慮しております。

私も今年で70歳になります。教授や先生も皆、様変わ
りし同窓生間の年齢差も益々開き、単純に講演会を開催
することが大学の社会的使命とその存在意義を共有すること

が難しくなっていると感じます。私が現在係わっている他
の団体に参加していても同様です。寿命が延び喜ばしい
ことですが、世代間格差は一段と加速しています。社会に
対して大谷大学が伝えていくべき道に迷いはありません。

しかし、同窓会の先頭に立つ我々も力を入れるところ
を母校への「懐かしさ」から、社会の変貌を直視し、若
い声を多く取り入れる耳を持つことに変えていかなけ
ればいけないのではないかと感じております。

この3年で寺の行事も葬儀の形も大きく変わりました。
経済的なことばかりではなく、一人の人生の終いに
他宗教の方々に真宗を伝える場も失われました。多分も
う元には戻らないのではと危惧しております。

公開講演会のあり方も同窓生から少しでも広がり
を大切に結んで行かなくてははいけません。今後、私達三
支部の課題になっていると思っています。



ご連絡お待ちしております

阪神支部長 志紀 正機

阪神支部は兵庫県芦屋市、尼崎市、
伊丹市、川西市、神戸市(北区[有馬
町]・灘区・東灘区)、三田市、宝塚市、西宮市、川辺
郡の同窓生で構成され、2023年4月20日現在、802名の
会員がおられます。

当支部では昨年9月、11年ぶりに公開講演会(旧：夏
季八十講)並びに支部総会を開催しました。事務局体制
の整わない中で、またコロナ禍の開催で多少の不安も
ありましたが、ご出向いただいた西本祐攝先生をはじめ、
同窓会本部、近隣支部の皆様方、会場の難波別院(大
阪市)、当日お越しいただいた方々、皆様方のご協力を
賜り、開催することができました。

講演会では、西本先生から生涯をかけて他の誰でも
ない自分自身と出会うことの大切さを教えていただき
ました。また個人的な感想になりますが、先生のお話
しを拝聴しながら学生時代のことを思い出しました。
一生涯の先生・友人に出会い、良いこともそうでない
ことも経験できた学生時代。日々の生活の中で忘れて
いた「あの時の大谷大学」を懐古する時間にもなりました。

本年以降、支部活動をより活発に行っていきたいと考
えています(支部キャンパスツアー、支部SNS開設等々)。と
は言え、一人では何もできません。もしご協力いただけ
る方がおられましたら、【阪神
支部 志紀：090-7964-8988】ま
でご連絡いただければ幸いです。気軽に繋がり、愉しく
集い、「問い、続ける。」阪神
支部でありたいと思います。



大谷大学公開講演会の様子(阪神支部)

支部長・支部事務局交代(同窓会本部 2022年4月2日以降、2023年5月12日現在掌握分)

- 支部長交代
- 〈十勝支部長〉
齊藤 悟 2022.07.01付就任(前支部長 鳥宮 慶法)
- 〈熊本支部長〉
福田 了裁 2022.08.20付就任(前支部長 糸山 公信)
- 〈静岡県支部長〉
佐々木文雄 2022.09.02付就任(前支部長 熊谷 法昭)
- 〈湖南支部長〉
北脇 光昭 2022.09.18付就任(前支部長 上寺 和親)
- 〈播磨支部長〉
日野 雅範 2022.12.31付就任(前支部長 赤松 弘之)
- 〈和歌山支部長〉
鈴木 憲昭 2023.01.01付就任(前支部長 太田 正史)
- 〈茨城支部長〉
梁河 文昌 2023.03.01付就任(前支部長 河和田唯彰)
- 〈富山支部長〉
和田 度 2023.03.17付就任(前支部長 五十嵐浄和)

- 〈湖東支部長〉
安倍 彰雄 2023.04.01付就任(前支部長 平塚志磨人)
- 〈大分支部長〉
能仁 徹也 2023.04.01付就任(前支部長 長久寺徳純)
- 支部事務局交代
- 〈熊本支部事務局〉
橋 彰映 2022.08.20付就任(前支部事務局 小代 廣施)
- 〈播磨支部事務局〉
木村 浄 2023.01.01付就任(前支部事務局 泉 宣昭)
- 〈茨城支部事務局〉
大内 崇久 2023.03.01付就任(前支部事務局 延岡 潤照)
- 〈函館支部事務局〉
黒萩 廣 2023.03.01付就任(前支部事務局 田中 彰祐)
- 〈大分支部事務局〉
相馬 尚 2023.04.01付就任(前支部事務局 大友 和彦)
- 〈湖東支部事務局〉
寺谷 覚栄 2023.04.01付就任(前支部事務局 蒲池 義圭)

変わらない問い

大谷大学教授 わたなべ ひろまさ 渡辺 啓真



1992年に教員として大谷大学にご縁をいただいてから30年が過ぎました。その前半は、在学生数がピークの時期で、哲学科に加えて93年度開設の国際文化学科、そして2000年度開設の人文情報学科と、複数の学科に関わる機会を得ました。多様な学生さんと出会い、学科や部門を超えた先輩、同僚教職員の方々に導かれて、自転車操業の日々ながら、育てていただきました。その後、近年の複数学部化などを経て、なにより2020年からの新型コロナウイルス感染症によって強いられた危機を経験しましたが、そうした変化の中でも、毎年変わることなく二十歳前後の人びとと学びをともにできていることに、大谷大学という学場のもつ伝統の力を実感しています。

変わらないといえば、人文情報学科開設以降20年あまり担当し続けてきた科目に「情報と倫理」(以前は情報倫理論という名称でした)があります。急激な情報環境の変化によって生じた新たな問題をフォローするだけで四苦八苦しているうちに、デジタル・ネイティブの学生さんを眼前にすることになりましたが、講義で主として取り上げる問いそのものはそれほど変わっていません。なかでもプライバシー、個人情報とそれに関わる人間関係の問題は、つねに受講生の関心をひくようです。私たちの自他の関係が、いや「自分」そのものが、状況の変化のなかで脆く流動的であること、しかしその中でなんとか交通を続けることによってしか、わたしたちは個であると同時に人間たりえないこと、それはどの世代にとっても切実な現実であり課題だからでしょう。コロナ下でのソーシャル・ディスタンス、マスク、アクリル板といった新たな「仕切り」の登場や、それに伴う軋轢や新たな交流のかたちも、SNS時代に揺れ動く人間の皮膜への問いをより鮮明に可視化し提起しているように思われます。問うこと自体が自己創造でもあるようなそうした問題を、今年も学生さんとともに考えることができそうです。

現役教員からのお便り

「ほんとう」を問い続ける保育を求めて

－大谷幼教の保育者養成－

大谷大学准教授 にしむら みき 西村 美紀



「大谷幼教」は、保育者(保育士、幼稚園教諭、保育教諭)を養成する「保育者養成校」として今年で56年が経ちました。1966年に短期大学部幼児教育科として2年間での養成を開始し、2006年幼児教育保育科と名称変更を経て、2018年教育学部教育学科幼児教育コース(80名定員)として4年制養成校へとリニューアルしました。

2008年に着任した私にとっても、4年制養成の開始はやはり大きな出来事でした。この養成課程を作っていくチームに入れてもらった際、まず「大谷幼教で大切にされてきたこと」とはなんだろうか、という問い直しを丁寧に行い、様々な角度から議論しました。最終的に、「人・子どもを大切にする保育者」「子どものいのち、思い、育ちを大切にする保育とはどういうことかを問い続ける保育者」を養成したいということが確認できました。そしてそのためには、「保育者自身も成長し続けること」が求められるだろう。そしてその成長は、子どもたちや他の保育者や保護者といった他者との関係のなかで起こってくるものだし、そうあってほしい、との願いを強くしたのです。

このような願いをもとに、1年生後期から4年生にかけて、現場での実践体験活動や実習をとおして体験的に学び、それを多様な方面から振り返りができるようにカリキュラムを構成しました。コロナ禍を経て、今後さまざまな行事活動も順次、再構成し再開していく予定です。慶問館の教室で理論の勉強をしたかと思えば、オペレッタの練習に!と2号館へ駆けていき、空き時間にはLinden(リンデン、大谷大学の子育て支援)の準備だと赤ちゃん人形でふれあい遊びの練習をしたり、学年をこえた公園での活動を計画したり…2年制から4年制になって、すこしゆったり?と思いきや、やはりそこは幼教。あいかわらず教員・学生共々忙しく、活発に活動中です。

4年制になってからの2期生がこの春現場に巣立ち、6期生が新入生として大谷幼教に加わりました。日々忙しく走り回りながらではありますが、大谷幼教の理念を何度も問い直し、一人ひとりの学生を大切に育てていきたいと気持ちもあらたに春を過ごしています。

CAMPUS TOPICS

キャンパストピックス

最新情報はこちらをチェック!

大谷大学



◆ 名誉教授の称号贈られる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、大谷大学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が1名の先生に贈られました。授与式は2023年4月1日に学長室において行われました。〈総務課〉



山本 貴子 名誉教授
(図書館情報学)

◆ 大谷大学とインド国立写本研究所が

世界初の学術交流協定を締結

2023年2月27日(月)インド共和国デリーにて、大谷大学とNational Mission for Manuscripts(インド共和国)が学術交流協定を締結いたしました。

National Mission for Manuscripts(以下 NMM)は様々な写本の収集・保存・修復・研究関係者育成や公開を行うインド文化省のもとにあるインド国立の研究機関であり、このたびの本学との協定は、大学機関としては世界で初の締結となります。

NMMとは今後当該協定に基づき、真宗総合研究所が中心となって連携を取り、仏教系の本学所蔵写本の保存・修復・デジタル化及び研究、日本に散在する写本の目録作成やデータベース構築、若手写本研究者の育成などを行っていきます。これらの活動により、大谷大学がインド学・仏教学に関する写本研究の日本の拠点となり、南アジア、東南アジアや欧米の複数の大学または研究所とアカデミックネットワークを築いていきます。

調印式には本学のダシュ ショバラニ教授が出席されました。ダシュ ショバラニ教授は今後について「日印国交樹立70周年を迎えた年度に協定を締結できたことは大変名誉なこと。今後は多面的に写本研究を行えるようになるので、大谷大学所蔵写本に限らず、インド学・仏教学の写本研究をさらに進めていきたい」と述べました。

〈教育研究支援課〉



調印式での記念撮影

◆ 課程博士の学位を授与

2022年度は、博士後期課程修了者5名に「博士(文学)」の学位が授与されました。〈教務課〉



池田 向一 氏 (真宗学)



千葉 一生 氏 (真宗学)



鶴留 正智 氏 (真宗学)



Ji WENJIE 氏 (仏教学)



谷口 愛沙 氏 (仏教学)

◆ 大谷大学と北海道が就職支援に関する協定を締結

2023年4月28日に大谷大学と北海道が、就職支援に関する協定を締結しました。今回の協定締結により、北海道から進学してきた学生に対してのさらなる支援の拡充や、北海道内の企業とのより一層の関係強化が期待されます。〈キャリアセンター〉

※2023年5月現在、15道府県と就職支援協定を締結しています。

石川県、滋賀県、京都府、福井県、長野県、福岡県、岡山県、和歌山県、鹿児島県、兵庫県、新潟県、三重県、富山県、愛知県、北海道(締結順)

ご存知ですか？ 寺院保障制度

仏教界注目! 寺院待望の寺院継承の制度です

● 住職(寺族)の保障及び退職金 ● 寺院の経済的基盤強化

● 寺院の為の資産活用術 ● 寺院修繕費の確保

※住職(寺族)の個人負担はありません

寺院保障制度、寺院経営のご相談、講演依頼はこちら

お問合せ **090-9112-9270**

[無盡燈特典あり 右記参照]

e-mail:info@tera-support.com

https://tera-support.com



代表 大野 雅仁 真宗大谷派教師
H4大谷大学大学院博士課程満期退学
専門は中国仏教史(滋賀ゼミ)
専門興隆を理念に全国の寺院に向けて
寺サポート事業を展開中

ご連絡の際「無盡燈見た」とお伝えください
初回相談料は無料とさせていただきます

寺サポート 合同会社

神戸市灘区楠丘町4-1-32-623

◆ 人事情報 ◆

(2022年5月1日～2023年4月30日)

執行部の交代

【研究・国際交流担当副学長】

廣川 智貴

【社会学部長】

阿部 利洋

【国際学部長】

三浦誉史加

2023年4月1日付（各通）

所長等の交代

【真宗総合研究所長】

廣川 智貴

【人権センター長】

志藤 修史

2023年4月1日付（各通）

定年退職

【教育職員】

川北 典子（教授／教育学部）

平尾 良治（教授／社会学部）

山本 貴子（教授／文学部）

【事務職員】

滝川 義弘（学生支援部）

2023年3月31日付（各通）

契約期間満了による退職

【教育職員】

塩見 知利

（特別契約教授／教育学部）

大艸 啓（任期制講師／文学部）

近江 望（任期制講師／教育学部）

小野木 聡（任期制助教／文学部）

鳥越 覚生（任期制助教／文学部）

秦野 貴生（任期制助教／文学部）

村上 無量（任期制助教／文学部）

【事務系嘱託】

麻生 量（教育研究支援部）

垣内 啓子（教育研究支援部）

片山 理沙（学生支援部）

神田 綾乃（総務部）

北村 文代（教育研究支援部）

桑原知幸子（企画・入試部）

田村 雅子（教育研究支援部）

【寮監】

中村 美沙（自灯学寮）

新田 真寿（貫練学寮）

【学習支援主任アドバイザー】

味村 考祐

2023年3月31日付（各通）

【学習支援アドバイザー】

服部久美恵

2022年9月30日付

梶 哲也

花房ともえ

【PD 研究員（真宗総合研究所東京分室）】

萩 翔一

2023年3月31日付（各通）

依願退職

【教育職員】

浦山あゆみ（教授／文学部）

石本 哲子（准教授／国際学部）

【事務職員】

篠塚 瑞希（教育研究支援部）

2023年3月31日付（各通）

福井 寛（学生支援部）

2023年4月22日付

【事務系嘱託】

河崎 由佳（教育研究支援部）

2022年8月31日付

前原利佳子（総務部）

2022年12月31日付

内藤佑美花（教育研究支援部）

2023年1月31日付

小笠原麻衣（学生支援部）

2023年2月28日付

新規採用

【教育職員】

鄭 祐宗（准教授／国際学部）

2022年9月1日付

大艸 啓（講師／文学部）

川瀬 綾子（講師／文学部）

白取耕一郎（講師／社会学部）

ターンプル ブレイク A.

（講師／国際学部）

川北 典子（特別契約教授／教育学部）

吹田 隆徳（任期制助教／文学部）

藤井 了興（任期制助教／文学部）

宗 周太郎（任期制助教／文学部）

【事務職員】

古賀美沙子（総務部付）

鳥田ののか（総務部付）

平出 桃実（総務部付）

【事務系嘱託】

青木 依子（学生支援部）

奥野ほたる（教育研究支援部）

鹿子木あゆみ（企画・入試部）

小森 宏美（教育研究支援部）

佐々木千寿子（教育研究支援部）

駄賀 彩香（総務部）

内藤 唯（教育研究支援部）

藤井 典子（教育研究支援部）

山添 尚美（学生支援部）

山本 盟子（総務部）

【校医】

山口 智美

【学生相談員】

粉川 尚枝

【寮監】

中原 大貴（貫練学寮）

【学習支援主任アドバイザー】

鳥越 覚生

【学習支援アドバイザー】

大谷 琢磨

藤貫 裕

【PD 研究員（真宗総合研究所東京分室）】

鶴留 正智

2023年4月1日付（各通）

昇格

【教授】

酒井 恵光（社会学部）

佐藤 愛弓（文学部）

田中 正隆（社会学部）

【准教授】

鎌谷 勇宏（社会学部）

西尾 浩二（文学部）

渡邊 大介（教育学部）

2023年4月1日付（各通）



臼井 元成名誉教授を偲んで

名誉教授の臼井元成先生が2023年3月15日に逝去された。法名は「法爾院釋元成」、89年の御生涯であられた。

1933(昭和8)年、岐阜県大垣市にお生まれの先生は、大谷大学文学部、大学院で学ばれ、1960(昭和35)年から文学部助手となられた。その後、専任講師、助教授を経て、1978(昭和53)年から教授を勤められた。また学生部長や文学部長を歴任され、大学運営の責任も担われた。

先生の専門は真宗学で、中でも伝統教学を踏まえて、親鸞における行信の問題を中心に尋ねてこられた。その成果は『真宗行信論の研究』としてまとめられている。

先生は大へん面倒見が良く、学生の相談に親身になって応じてくださった。先生のおかげで大学を卒業できた学生も少なくない。また先生は長年にわたり剣道部の顧問をお務めくださった。そして剣道部だけにとどまらず、体育系のクラブ全体のことも気にかけてくださった。私自身、剣道部で公私ともにお世話になった者の一人である。

ご退職されてからも剣道部のこと、大学のことに心配りをいただいた。昨年末に体調を崩されたとお聞きしていたのに参上できずに失礼しました。臼井先生、本当にありがとうございました。 大谷大学教授 一楽 真

【Real がみつかる。“私のストーリー”】

OPEN CAMPUS 2023



7.9 SUN

8.5 SAT

8.6 SUN

9.3 SUN

12.17 SUN

2024.
3.24
SUN

いずれも【午前】10:00-13:00(受付 9:30-)【午後】13:40-16:30(受付 13:00-)
*詳細は大学 Web サイトをご覧ください。

大学説明会

入試対策

個別相談

学び紹介

来場型オープンキャンパス : 入試対策講座

事前申込をお願いいたします。
【午前の部】【午後の部】の両方に
申込みいただくことも可能です。

—— 当日の申込みもOK! ——



お申込は
こちらから

10/15(日) 公募制推薦入試対策
(模擬試験と解説)

12/17(日) 一般入試対策
(模擬試験と解説)
いずれも 9:30~15:30

広 告
募 集

同窓会報『無盡燈』 広告掲載について

およそ 40,000 人 (2023 年 4 月現在) の同窓生に向けて、お店の紹介などの広告を掲載しませんか。掲載枠の種類は以下のとおりです。

- 2 枠 (タテ 60mm × ヨコ 180mm) 50,000 円 (税込)
- 1 枠 (タテ 60mm × ヨコ 90mm) 30,000 円 (税込)

※掲載ページの指定はできません。

()内は最終卒業・修了年度(敬称略)
年月日はご逝去された日付
(逝去日・五十音順)

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで
哀悼の意を表します。

※同窓会本部 2023年3月31日現在
掌握分

篠 知廣	短期	(1968)	2020.04.14	野田 龍俊	文学部	(1963)	2022.03.06	谷 真也	短期	(1987)	2022.08.05
渡辺 善磨	文学部	(1959)	2020.09.17	藤原 宣	文学部	(1956)	2022.03.13	越川 明啓	文学部	(1958)	2022.08.06
金子 幸順	大学部	(1952)	2020.11.18	三藤 綾子	文学部	(1969)	2022.03.13	瀬川 祐宣	文学部	(1962)	2022.08.17
谷 直光	大学部	(1948)	2021.03.29	龍 将人	文学部	(1955)	2022.03.13	小園 至	文学部	(1961)	2022.08.19
細川 慈教	文学部	(1965)	2021.05.20	佐藤 季宏	短期	(1956)	2022.03.15	鈴木 深	文学部	(1974)	2022.08.19
竹園 紀子	短期	(1974)	2021.06.25	武佐 祐昌	文学部	(1965)	2022.03.19	菴原 勉	大学部	(1952)	2022.09.06
井形 好美	短期	(1982)	2021.06.29	長谷部正英	短期	(1952)	2022.03.21	澤田 秀丸	文学部	(1957)	2022.09.11
嶋津 孝照	文学部	(1960)	2021.07.16	吉本 寿寛	大専門	(1947)	2022.03.26	橋本 真之	文学部	(2000)	2022.09.12
三角 紘容	文学部	(1967)	2021.10.16	山田 月清	文学部	(1956)	2022.03.27	長 親昭	文学部	(1954)	2022.10.07
小倉 梅雄	文学部	(1957)	2021.10.25	立花 徳潤	文学部	(1970)	2022.03.31	藤島 尚文	文学部	(1958)	2022.10.08
今村 恵以智	文学部	(1957)	2021.10.28	藤谷 秀宜	文学部	(1953)	2022.04.02	西山 郷史	修士	(1971)	2022.10.12
植山 法山	文学部	(1956)	2021.11.12	篠原 正信	大学部	(1953)	2022.04.06	江上 浄信	博士	(1962)	2022.10.16
大東 真道	文学部	(1958)	2021.11.27	木村 修	大学部	(1952)	2022.04.09	砂谷 昭夫	短期	(1959)	2022.10.16
小川 章法	文学部	(1996)	2021.12.06	本多 祐基	修士	(1978)	2022.04.14	太藤 順誼	修士	(1963)	2022.10.20
中島 覚	短期	(1976)	2021.12.11	西岡 芳順	文学部	(1955)	2022.04.23	栗津 啓有	文学部	(1961)	2022.10.26
佐々木 健夫	文学部	(1973)	2021.12.16	武井 敬宣	大学部	(1942)	2022.04.24	進藤 瑞恵	文学部	(1973)	2022.11.02
石川 忍	文学部	(1967)	2021.12.28	彪 宣宗	文学部	(1958)	2022.04.27	末森 尚文	文学部	(1968)	2022.11.04
藤田 賢英	短期	(1961)	2022.01.01	井上 一磨	文学部	(1960)	2022.04.29	松本 正信	修士	(1958)	2022.12.04
片山 美紀	文学部	(1975)	2022.01.08	児玉 了正	文学部	(1957)	2022.04.29	阪埜 彰人	文学部	(1973)	2022.12.08
樫 暁	大学部	(1944)	2022.01.10	中富 敏治	博士	(1962)	2022.05.13	中川 恵一	文学部	(1989)	2022.12.08
林 治	短期	(1970)	2022.01.11	荒木 源	文学部	(1958)	2022.05.17	織田 信海	文学部	(1956)	2022.12.13
本多 慧見	文学部	(1957)	2022.01.23	高知 司	短期	(1954)	2022.05.18	林 幸男	文学部	(1995)	2022.12.23
釜田千寿加	博士	(1960)	2022.01.25	田村 憲世	短期	(1956)	2022.05.19	石ヶ森 正信	文学部	(1974)	2022.12.26
佐治 信隆	文学部	(1965)	2022.01.31	常盤 浄園	大専門	(1949)	2022.05.22	渡辺 徳温	文学部	(1971)	2022.12.29
村井 昇慶	大専門	(1950)	2022.02.01	千葉 進	文学部	(1971)	2022.06.02	推耳 智一	大予科	(1948)	2022.12.30
後藤 義映	修士	(1969)	2022.02.08	藤芝 友温	大学部	(1947)	2022.06.02	小田 旨隆	文学部	(1965)	2022.12.30
武山 秀道	大学部	(1948)	2022.02.08	貞広 深韶	文学部	(1963)	2022.06.04	原田 法照	短期	(1956)	2023.01.04
福田 元道	文学部	(1965)	2022.02.09	南 俊道	大専門	(1947)	2022.06.05	菅 海雲	短期	(1959)	2023.01.12
朝木 淳昭	大学部	(1947)	2022.02.10	日野 寛	大学部	(1952)	2022.06.09	雷重 圓	文学部	(1955)	2023.01.13
大安 亮寿	文学部	(1956)	2022.02.12	池田 法喜	文学部	(1961)	2022.06.14	石田 文	短期	(1957)	2023.01.21
竹村 眞雄	文学部	(1955)	2022.02.13	大塚 順応	文学部	(1974)	2022.06.17	三牧 文弘	文学部	(1961)	2023.01.24
安部 英淳	文学部	(1955)	2022.02.17	菅沼 宗昌	文学部	(1955)	2022.06.17	小田 慶久	短期	(1956)	2023.01.26
甲田 義輝	文学部	(1970)	2022.02.23	華蔵閣行恵	文学部	(1962)	2022.06.24	曲 文弘	文学部	(1957)	2023.02.08
大富 静信	短期	(1958)	2022.02.25	白尾 公兼	大学部	(1952)	2022.06.26	本多 顕義	大学部	(1952)	2023.02.09
大橋 祥吾	文学部	(1953)	2022.02.25	友光 淳照	文学部	(1982)	2022.07.02	黒崎 昭明	文学部	(1960)	2023.04.10
高松 信英	修士	(1963)	2022.02.28	加藤 祐晃	文学部	(1957)	2022.07.12	伊知地 魏照	文学部	(1956)	2023.05.01
米原 満	文学部	(1974)	2022.03.01	坂井 龍輔	文学部	(1961)	2022.07.13				
溪 智仁	短期	(1959)	2022.03.03	東野 弘潤	文学部	(1963)	2022.07.24				

大谷大学同窓会の発展にご尽力賜りました元役員・支部長のご逝去について、謹んでご報告申し上げます。
黒崎 昭明氏 < 2009年 ~ 2020年 函館支部長 > 伊知地 魏照氏 < 1989年 ~ 2004年 常務理事 >

ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年度(敬称略) ※同窓会本部 2023年3月31日現在 掌握分 入籍日順

大友 仁 (2004文)	♥	長岡 慈
竹上 樹	♥	川井 柚香 (2012文)
田中 隼人 (2019文)	♥	工藤 早紀 (2018文)
村上 無量 (2019博)	♥	田仲 美優

※大谷大学尋源講堂での仏前結婚式をお受けしています。お問い合わせは、大谷大学総務課 (TEL 075-411-8163) まで。

同窓会費の納入について(協力ご依頼)

同窓会は、同窓の皆さまにご納入いただく「同窓会費(終身会費と年会費)」と「寄付金」を活動資金として事業を行っています。同窓会活動にご理解とご支援を賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<会員区分について>

卒業年度により「会員区分」が異なります。ご自身の会員区分をご確認いただき、「同窓会費(終身会費と年会費)」または「寄付金」のご納入をお願いいたします。

なお、同窓会報『無盡燈』の宛名ラベルに所属の会員区分が記載されています。

会員区分	ご依頼内容
一般会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会員」ではない方	同封の振込取扱票(振込手数料無料※)を使用し、以下の【A】【B】のいずれかの方法により、会費納入をお願いいたします。 【A】毎年、「年会費 3,000円」を納入する。 【B】「終身会費 30,000円」を納入し、終身会員に変更する。 振込取扱票を使用されない場合は、以下の口座に振込をお願いいたします。 <同窓会費専用 振替口座(ゆうちょ銀行)> 口座番号 01020-9-20542 加入者名 大谷大学同窓会本部
終身会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会費 30,000円」を納入した方 ②1991年度以降の卒業・修了生のうち、卒業・修了年次の学費納入時、「終身会費30,000円」を納入した方	同封の振込取扱票(振込手数料無料※)をご利用いただき、寄付金の納入に、ご協力をお願いいたします。

※通帳・カード扱いの場合に限る。

2023年度 大谷大学博物館 開館情報

▶ 夏季企画展 大谷大学博物館開館20周年記念 賀茂の歴史と信仰

会期：2023年6月6日(火)～7月29日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし7月17日(月・祝)は開館 観覧料：無料

▶ 秋季企画展 大谷大学博物館開館20周年記念 大谷大学博物館学課程2023年度実習生展

会期：2023年9月5日(火)～9月23日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし9月18日(月・祝)は開館 観覧料：無料

▶ 特別展 大谷大学博物館開館20周年記念 宗祖親鸞聖人誕生850年・立教開宗800年記念 古典籍の魅力2023

会期：2023年10月10日(火)～11月28日(火)

休館日：日曜日・月曜日※ただし10月23日(月)、11月26日(日)、27日(月)は開館

観覧料：一般・大学生500円 小・中・高校生無料

▶ 冬季企画展 大谷大学博物館開館20周年記念 京都を学ぶ 拓本からみる京の梵鐘

会期：2024年1月13日(土)～2月17日(土)

休館日：日曜日・月曜日※ただし1月15日(月)は開館 観覧料：無料

開館時間はいつでも10:00～17:00(入館は16:30まで)

詳細は大谷大学博物館ホームページにてご確認ください。

大谷大学博物館

〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483
https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

同期会、OB・OG会の受付を再開いたしました

同期会、OB・OG会開催にあたり、同窓会本部では以下のサポートを行っています。開催の際はぜひご連絡ください。
(※以下のサポートは、対象者すべての方への案内(例：ゼミ全員に案内)が条件となります。)

Support 1 大学施設の利用・見学ができます。

- 学内施設または湖西キャンパスセミナーハウスで開催ができます。
 - 学内でのケータリングが可能です。
- ※希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部へご相談ください。学内見学も随時受付けています。

Support 2 連絡用名簿・宛名ラベルの提供ができます。 ※申請書受付後、提供までに1週間～10日程かかります。

Support 3 ホームページ「無盡燈」に開催告知を掲載します。

Support 4 開催の補助を行います。

- 通信費の一部として補助(1万円/2023年6月現在)を行っています。一定の条件がありますので、詳細は同窓会本部までお問い合わせください。

Support 5 写真を掲載し、同窓会ホームページ「無盡燈」には、開催報告(写真およびコメント)の掲載をします。

開催スケジュール

- ① おおよその開催日・開催場所を決定。
↓
- ② 同窓会本部へTELまたはメールで連絡。
★ 幹事名、「同期会開催届」の送付先、名簿・宛名ラベルの必要有無を連絡してください。
↓
- ③ 「同期会開催届」を開催1ヵ月前までに提出。
★ 同期会、OB・OG会では、対象者すべての方に案内(例：ゼミ全員、OB・OG全員に案内)を行ってください。
↓
- ④ 開催補助(1万円)を幹事へ送付(現金書留)。
↓
- ⑤ 開催当日
★ 開催報告用に、集合写真を撮影してください。
↓
- ⑥ 開催後、1ヵ月以内に同窓会報『無盡燈』掲載用の「集合写真」、「コメント(200文字以内)」を同窓会本部へ提出。

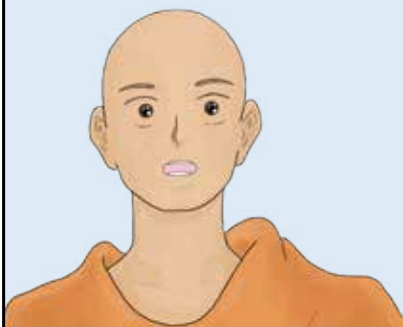
<お問合せ先>

大谷大学同窓会本部 (大谷大学校友センター内)

開室時間 9:00～17:00 (11:30～12:30 土・日・祝のぞく)

TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

2023年度 お申込 受付中



真宗大谷派の講師陣による基礎重視のオンライン講座

親鸞仏教オンライン学舎



- 毎週火曜 19時半 Zoomで配信
- 年間51講義 充実の講義/講義数
- 見逃し配信あり いつでも学習
- 年間受講料 12,000円

詳しくはHPをご覧ください

HP▶ <https://shinran.online/>

親鸞仏教オンライン学舎 🔍 で検索!



真宗大谷派僧侶有志が集まり「親鸞仏教オンライン学舎」は2023年4月に開校しました。

事務局代表 / 竹川英紀 (東京教区・願正寺)

教育振興資金寄付者（敬称略）【2022年4月1日～2023年3月31日】

大谷大学では、教育研究環境の一層の充実を図るため、「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。ご寄付いただいた資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。

2022年4月1日から2023年3月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々は次のとおりです。

また、本学では引き続き募金活動を行っております。ご寄付の方法につきましては、大谷大学ホームページをご確認ください。今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

2022年4月1日～2023年3月31日

寄付者総数 53件
寄付金総額 10,668,000円

個人	浅田 純（長崎県） 岩田 理恵（三重県） 岡村 隆（山口県） 佐藤 賢隆（滋賀県） 末吉 満法（鹿児島県）
	鈴木 直志（千葉県） 武田 量則（新潟県） 力石 智（愛媛県） 中村 美里（京都府） 中山恵美子（大阪府）
	難波 明則（大阪府） 本多佐保美（千葉県） 前田 研一（新潟県） 宮崎 真澄（京都府） 織田 顕智（愛知県）
	酒井 洋一（兵庫県） 鈴山 憲彰（京都府） 英 信哉（愛知県） 英 亮（愛知県） 林 晃雄（愛知県）
	藤林 優輝（京都府） 横山 一真（奈良県） 匿名 22件

法人・団体	NPO 法人尋源舎（京都府）
	株式会社原了郭 代表取締役 原 悟（京都府）
	西光寺 橋本 唯彰（茨城県）
	有限会社石間企画事務所 代表取締役 石間 裕（東京都）
	円林寺 末廣 法崇（大分県）
	東光寺 英 信哉（愛知県）
	東光寺 英 亮（愛知県）
	匿名 2件

〈本寄付は学校法人真宗大谷学園に対する寄付であり、税法上の優遇措置を受けることができます。〉

【寄付のお申し込み／お問い合わせ先】 **大谷大学教育振興資金事務局**

京都市北区小山上総町（大谷大学校友センター内） TEL 075-411-8124

大谷大学寄付

OTANI古本Project

ヒコガル×ツナガル 学生支援

OTANI UNIVERSITY USED BOOK DONATIONS



2018年6月から2023年3月（※）までに4,114冊（117,208円分）の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。
（※）新型コロナウイルス感染症のため、2020年5月以降の取り引きを一旦中断していました。現在は再開しています。

このプロジェクトは、読み終えた本、不要になった本（DVD・CD・ゲームを含む）を寄付することで、寄付された書籍は、社会へ還元され、いただいた寄付金は大谷大学在学生在が選ぶ大学図書（学生選書プロジェクト）の本の購入費用となる寄付事業です。

古本は、郵送または大学図書館設置の回収ボックスで回収可能です。この機会にぜひ、「OTANI古本Project」にご協力ください。

手続きの方法は？

- ① 2010年以降に出版された書籍が確認する。
（※2010年より以前の書籍は「おためし査定」をする。）
- ② 書籍をダンボールに入れる。
- ③ WEBで集荷を依頼する（※5冊以上であれば送料無料です）。
- ④ 査定結果についてご本人に報告（買取金額が大学へ寄付されます）。



おためし査定はこちら

どのような仕組みですか？

古本を寄付 古本の集荷・仕分け・買取 大学図書購入費用等へ

同窓生のみなさま

株式会社バリューブックス



以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBNのない本



- 百科事典 ● コンビニコミック
- 個人出版の本 ● マンガ雑誌 ● 一般雑誌
- 2010年より以前に出版された本

※「おためし査定」で査定額が出るものはご寄付いただけます。

詳しくは WEBをご覧ください。

大谷大学古本募金

お問い合わせ先

大谷大学教育振興資金事務局（大谷大学校友センター内）
TEL：075-411-8124（平日9：00～17：00）

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価値等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや、値段がつかないこともございます。お申込みの際は、その点をご理解くださいますようお願いいたします。



京都市
ふるさと納税で
学生活動を応援

学生たちは様々な場所で活動しています
地域と連携した14プロジェクト



ふるさと納税の使い道
返礼品の受け取り

寄付額の一部が学生の社会貢献活動の費用として活用されます。
返礼品を選び、寄付金の使い道を「大谷大学」に指定をお願いいたします。

[お問合せ先]

●大谷大学の地域連携活動について
大谷大学 地域連携室
TEL075-411-8015



●京都市ふるさと納税について
京都市役所 ふるさと納税担当
TEL075-222-3044



さとふる・ふるさとチョイスなど、京都市掲載サイトからお手続きください

京都市ふるさと納税特設サイト

部活紹介

大谷大学演劇部 劇団蒲団座



現在の劇団蒲団座

大谷大学演劇部「劇団蒲団座」は旗揚げから40年という歴史ある団体です。年3回の自主公演を行っており日々お客様と団員の双方が「楽しい」と感じられる舞台を探索しています。

例年の自主公演では大学内外からお客様にお越しいただいておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため2020年度から2023年3月現在まで在學生と教職員以外の方のご来場は卒業生を含めて

お断りしている状況です。そのため、ご卒業されたOB・OGの方々にお話を伺うことやご指導いただくことは叶いませんでした。一時は客席の設置や照明機材の使用も制限されたために技術継承が困難となり劇団存続も危ぶまれました。それでも、蒲団座を絶やすまいと引退した4年生と力を合わせて今日まで劇団蒲団座は活動を続けております。

新たな取り組みとしてご来場いただけないお客様にも蒲団座の作品をお届けするために2021年度冬公演から一部作品をYouTubeで公開しております。是非、ご視聴していただけたらと存じます。また、Twitterとgooブログは現在も随時更新中です。現役団員の稽古風景や部活動に対する想いを覗き見ることが出来るかもしれません。こちらも併せてご覧いただけたら幸いです。

ご卒業されたOBOGの皆様や劇団蒲団座の公演を心待ちにされている方々へご来場いただける日に向けて、これからも「楽しい」舞台づくりに励んでいきます。

大谷大学演劇部 劇団蒲団座 座長

今私たちにできることを

同窓生の皆様、こんにちは。大谷大学バレーボール部です。当部には現在、第4学年6人、第3学年3人、第2学年6人の計15人が在籍しています。活動は大谷大学内の体育館で火・金曜日17時～19時、土曜日10時～12時または13時～15時で週3回行っています。男子だけでなく女子も希望者はプレイングマネージャーとして混合で練習しています。2023年の活動予定といたしまして4～5月に春季リーグ戦、10月に秋季リーグ戦が行われます。1～3月頃には卒業を目前にした4学年の送別会としてOB戦を行っています。

活動の中心は2・3学年であり、人数は少ない状況にあります。思うように練習ができない環境ではありますが、そのような中でも部員同士で練習メニューを試行錯誤し、日々楽しみながら大会に向けて活動しております。時折、卒業生の方が練習に参加しに来てくださることがあり、その時は部員一同とても喜んでいきます。バレーボール部のTwitter(@otu_volleyball)とInstagram(@otani.volleyball_club)にて活動日程や大会の結果情報、活動の様子を発信しています。是非、SNSをチェックしてみてください。

現在、私たちの成績は7部8位であります。なので、まずは6部への昇格を目標にして頑張っていきます。これからも大谷大学バレーボール部の応援を宜しくお願い致します。

大谷大学バレーボール部 北島 宗昭

大谷大学バレーボール部

部活紹介



goods

大谷大学オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学内Yショップまで、ご連絡ください。
地方発送等も承ります(送料別)。

- ハッ橋詰め合わせ
(16パック・48枚入・大箱)
1,080円(税込)
(賞味期限：約4ヶ月)



- ハッ橋詰め合わせ
(6パック・6枚入・小箱)
270円(税込)
(賞味期限：約4ヶ月)



- 瓦煎餅(6パック・12枚入)
600円(税込)
(賞味期限：約4ヶ月)



- 三笠
(粒あん3個・抹茶あん2個入)
1,080円(税込)
(賞味期限：約2週間)



- 大谷大学徽章
800円(税込)



グッズや価格を変更する場合があります。
最新情報は大学ホームページをご確認ください。



goods

同窓会オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学同窓会本部まで、電話、E-mail、FAX又は郵送にてお申込みください。
地方発送等も承ります(送料別)。

- オリジナル名刺入れ
定価 3,000円
→旧大学ロゴ使用のため、
300円(送料別)



- オリジナルブックカバー
定価 3,000円
→旧大学ロゴ使用のため、
300円(送料別)



- オリジナル念珠・念珠袋
男性用・女性用
各3,000円(送料別)



- その他グッズもあります。
同窓会ホームページ「無盡燈」
をご確認ください。



http://www.mujiinto-otani.org/use_facilities/index.html

大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

goods

ミュージアムグッズ

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。
地方発送等も承ります(送料別)。下記以外にもグッズの種類は多数ございます。
詳細は大学ホームページで確認ください。http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

- 活版ノート
「つくもがみ絵巻」を表紙にデザインしたノート
1冊 800円



- トートバッグ
初代学長清沢満之が描いたウサギを
デザインに使用
1個 1,000円



- クリアファイル
左より：貝葉包布、延寿命除苦観音菩薩像(敦煌画模本)、
燈指因縁経(神護寺経)、尋源館をデザインに使用
1枚 150円(4種類お買い上げで500円)

- 図録 バックナンバーを販売しています。詳細はHPをご確認ください。https://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/nab3mq000000717b.html

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483

卒業後も大学を利用しよう！ 卒業後も、大学で利用できるサービスがあります。

🏠 ご住所の変更連絡

同窓会本部では、同窓会員の住所・氏名を管理しています。会報誌、同期会等各種郵送物の宛先となりますので、氏名・住所に変更がある場合は、同窓会本部へご連絡または、以下のメールフォームをご利用ください。

大谷大学ホームページ 会員の住所変更
<https://www.otani.ac.jp/kouyuu/nab3mq000005lgd2.html>



📄 各種証明書の申込み

証明書等の発行については、お電話または窓口で申し込むことができます。発行には手数料が必要となります。詳細は大学ホームページをご確認ください。



大谷大学各種証明書

👰 ご結婚のお知らせ

同窓会員がご結婚される際には、同窓会より祝電をお送りします。また、同窓会報『無盡燈』にてご結婚のご報告をさせていただきますので同窓会本部(TEL: 075-411-8124)へご一報ください。

📖 図書館・博物館のご利用

同窓生は、大谷大学の図書館、博物館(特別展無料)を利用することができます。ただし、図書館の利用には、利用証申請手続きが必要です。詳細については、大学ホームページをご確認ください。

大谷大学図書館

大谷大学博物館

※現在、新型コロナウイルス感染症により利用制限を設けています。詳細は、大学ホームページをご確認ください。

大谷大学内で仏前結婚式

大谷大学の尋源館2階にある尋源講堂で、仏前結婚式を行うことができます。

尋源館は登録有形文化財として登録されています。思い出の大学での結婚式をお考えの際は相談ください。

▶ 仏前結婚式の問合せ先

大谷大学総務課 TEL: 075-411-8163



表紙絵 「加茂街道の松」

170×180cm 2020年作

大谷大学は環境に恵まれている。ショッピングセンターやバスのターミナル、地下鉄の駅も近い。しかし少し歩けば植物園があり、四季折々の花や木を見るのは楽しい。温室には南国の植物が沢山あり、見飽きることはない。温室を入り一つのコーナーを曲がり次のコーナーを曲がらない先に一本のインド菩提樹がある。それは釈尊成道の地ブダガヤにある菩提樹の実生から育った木である。我が家では幾本も菩提樹を育てているが、晩秋から春までは室内に入れなければならない。気温が5度を下回ると寒さで枯れてしまう。もう20年も前に、大きくなりすぎたので植物園に寄贈したものである。DNAが由緒正しいものなので、喜んでもらった。温室の天井に届き何度も切断されているが、ハート形の葉の緑は美しくまた大きい。この頃の学生は、滅多に植物園に行かないが、生きている植物を見て自然の妙を楽しんで欲しいと思う。

大谷大学近くで歩いたり自転車で散策するのに良いの

は鴨川沿いの加茂街道である。出町から北山までが特に良い。北大路から北山通の植物園側は「^{なからぎ}半木の道」といって枝垂桜の並木で近年樹が大きくなり見事になった。北山橋の横には一本渋柿があり妙な風情がある。大学に一番近い紫明通の加茂街道のあたりは特に樺の大木が美しい。出雲路橋から出町にかけてはあまり目立つ木はない。松がちらほらとあるが、御所のような立派な松ではなく、それも、ブツブツと枝が切り落とされている。それがまたなんと風情があり、一点、作品として描いた。松は常緑樹でいつも葉があるが、春の新芽や、古い葉が落ちる様を見ていると、「諸行無常」いつも同じ常態ではない、もの事は移り行くという仏教の基本を感じる。

四季のある日本の自然の豊かさ、営みの深さを日々の小さな出来事の中に感じ、自然と共にある私を考える小さなヒントが身近にあることを教えられる。

畠中 光享(1970年度文学部卒)

日本画家 インド美術研究者

2023年6月12日発行

発行 大谷大学同窓会本部

編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内

TEL (075)411-8124 FAX (075)411-8157

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

同窓会ホームページ <http://www.mu jinto-otani.org/>

ホームページ「無盡燈」毎月1回更新!

大谷大学同窓会



ホームページやSNSでは、同窓会の活動や同窓生の活躍、母校「大谷大学」の現況などの情報をタイムリーに発信しています!